

中國第一歷史檔案館編

乾隆帝起居注
(六)

廣西師範大學出版社

中國第一歷史檔案館編

乾隆帝起居注（六）

廣西師範大學出版社
· 桂林 ·

第六册 目錄

乾隆十二年（公元一七四七年）

正月	
初一日	(一)
初二日	(一)
初三日	(一)
初四日	(二)
初五日	(二)
初六日	(三)
初七日	(四)
初八日	(四)
初九日	(四)
初十日	(五)
十一日	(五)
十二日	(五)
十三日	(六)
十四日	(六)
十五日	(七)
十六日	(七)
十七日	(八)
十八日	(八)

二月	
十九日	(一)
二十日	(一)
二十一日	(一)
二十二日	(二)
二十三日	(二)
二十四日	(三)
二十五日	(三)
二十六日	(四)
二十七日	(四)
二十八日	(六)
二十九日	(六)
三十日	(七)
初一日	(九)
初二日	(九)
初三日	(二)
初四日	(二)
初五日	(五)
初六日	(八)

初七日	(三一)
初八日	(三二)
初九日	(三三)
初十日	(三四)
十一日	(三四)
十二日	(三五)
十三日	(三五)
十四日	(三五)
十五日	(三五)
十六日	(三七)
十七日	(三七)
十八日	(三七)
十九日	(三七)
二十日	(三八)
二十一日	(三八)
二十二日	(三九)
二十三日	(三九)
二十四日	(四〇)
二十五日	(四〇)
二十六日	(四〇)
二十七日	(四一)
二十八日	(四三)
二十九日	(四六)
三十日	(四七)

三月

初一日	(五〇)
初二日	(五二)
初三日	(五三)
初四日	(五四)
初五日	(五七)
初六日	(五七)
初七日	(五九)
初八日	(六〇)
初九日	(六二)
初十日	(六三)
十一日	(六四)
十二日	(六八)
十三日	(七一)
十四日	(七二)
十五日	(七三)
十六日	(七六)
十七日	(七八)
十八日	(八〇)
十九日	(八〇)
二十日	(八五)
二十一日	(八五)

初一日	(九七)
初二日	(九七)
初三日	(九九)
初四日	(一〇〇)
初五日	(一〇〇)
初六日	(一〇一)
初七日	(一〇二)
初八日	(一〇三)
初九日	(一〇三)
初十日	(一〇六)
十一日	(一〇八)
十二日	(一一〇)
十三日	(一一一)
四月		
二十九日	(九三)
二十八日	(八九)
二十七日	(八八)
二十六日	(八八)
二十五日	(八七)
二十四日	(八七)
二十三日	(八六)
二十二日	(八六)

初一日	(一三八)
初二日	(一三九)
初三日	(一四〇)
初四日	(一四一)
五月		
三十一日	(一三五)
二十九日	(一三三)
二十八日	(一三一)
二十七日	(一二九)
二十六日	(一二八)
二十五日	(一二七)
二十四日	(一二六)
二十三日	(一二五)
二十二日	(一二五)
二十一日	(一二四)
二十日	(一二二)
十九日	(一一九)
十八日	(一一七)
十七日	(一一六)
十六日	(一一四)
十五日	(一一二)
十四日	(一一二)

初五日	(一四二)
初六日	(一四三)
初七日	(一四四)
初八日	(一四七)
初九日	(一四八)
初十日	(一四九)
十一日	(一五〇)
十二日	(一五一)
十三日	(一五一)
十四日	(一五二)
十五日	(一五二)
十六日	(一五四)
十七日	(一五四)
十八日	(一五六)
十九日	(一六〇)
二十日	(一六二)
二十一日	(一六二)
二十二日	(一六三)
二十三日	(一六五)
二十四日	(一六五)
二十五日	(一六九)
二十六日	(一七〇)
二十七日	(一七二)
二十八日	(一七二)

二十九日	(一七三)
三十日	(一七四)
六月		
初一日	(一七七)
初二日	(一七八)
初三日	(一七八)
初四日	(一七九)
初五日	(一八〇)
初六日	(一八〇)
初七日	(一八二)
初八日	(一八三)
初九日	(一八五)
初十日	(一八五)
十一日	(一八六)
十二日	(一八六)
十三日	(一八八)
十四日	(一九〇)
十五日	(一九一)
十六日	(一九三)
十七日	(一九四)
十八日	(一九四)
十九日	(一九五)

七月

二十日	(一九六)
二十一日	(一九七)
二十二日	(一九七)
二十三日	(一九八)
二十四日	(一九九)
二十五日	(一九九)
二十六日	(二〇〇)
二十七日	(二〇一)
二十八日	(二〇一)
二十九日	(二〇二)
初一日	(二〇三)
初二日	(二〇四)
初三日	(二〇六)
初四日	(二〇七)
初五日	(二〇七)
初六日	(二一〇)
初七日	(二一一)
初八日	(二一四)
初九日	(二一五)
初十日	(二一五)
十一日	(二一五)

八月

十三日	(二一六)
十四日	(二一九)
十五日	(二二三)
十六日	(二二五)
十七日	(二二八)
十八日	(二三一)
十九日	(二三三)
二十日	(二三四)
二十一日	(二三五)
二十二日	(二三五)
二十三日	(二三五)
二十四日	(二三六)
二十五日	(二三七)
二十六日	(二三七)
二十七日	(二三七)
二十八日	(二三七)
二十九日	(二三八)
三十日	(二三九)
初一日	(二四〇)
初二日	(二四〇)

初三日	(二四〇)
初四日	(二四〇)
初五日	(二四〇)
初六日	(二四一)
初七日	(二四二)
初八日	(二四三)
初九日	(二四三)
初十日	(二四四)
十一日	(二四四)
十二日	(二四四)
十三日	(二四五)
十四日	(二四五)
十五日	(二四五)
十六日	(二四七)
十七日	(二四七)
十八日	(二四七)
十九日	(二四八)
二十日	(二四八)
二十一日	(二四八)
二十二日	(二四九)
二十三日	(二四九)
二十四日	(二四九)
二十五日	(二五〇)
二十六日	(二五〇)

九月

二十七日	(二五〇)
二十八日	(二五二)
二十九日	(二五二)
初一日	(二五三)
初二日	(二五三)
初三日	(二五四)
初四日	(二五四)
初五日	(二五四)
初六日	(二五五)
初七日	(二五六)
初八日	(二五六)
初九日	(二五七)
初十日	(二五八)
十一日	(二五八)
十二日	(二五八)
十三日	(二五九)
十四日	(二五九)
十五日	(二五九)
十六日	(二六一)
十七日	(二六一)
十八日	(二六一)

十九日 (二六二)
 二十日 (二六三)
 二十一日 (二六三)
 二十二日 (二六四)
 二十三日 (二六九)
 二十四日 (二七一)
 二十五日 (二七一)
 二十六日 (二七三)
 二十七日 (二七四)
 二十八日 (二七八)
 二十九日 (二七九)
 三十日 (二八〇)

十月

初一日 (二八一)
 初二日 (二八一)
 初三日 (二八三)
 初四日 (二八三)
 初五日 (二八八)
 初六日 (二八八)
 初七日 (二九一)
 初八日 (二九一)
 初九日 (二九三)

初十日 (二九二)
 十一日 (二九五)
 十二日 (二九六)
 十三日 (二九八)
 十四日 (二九九)
 十五日 (三〇三)
 十六日 (三〇五)
 十七日 (三〇七)
 十八日 (三〇八)
 十九日 (三一三)
 二十日 (三一五)
 二十一日 (三一五)
 二十二日 (三一七)
 二十三日 (三一八)
 二十四日 (三一九)
 二十五日 (三一九)
 二十六日 (三三〇)
 二十七日 (三三一)
 二十八日 (三三一)
 二十九日 (三三三)

十一月

初一日 (三三四)

初二日 (三二四)
 初三日 (三二六)
 初四日 (三二七)
 初五日 (三二八)
 初六日 (三二九)
 初七日 (三三一)
 初八日 (三三五)
 初九日 (三三六)
 初十日 (三三七)
 十一日 (三三八)
 十二日 (三三九)
 十三日 (三四一)
 十四日 (三四二)
 十五日 (三四四)
 十六日 (三四八)
 十七日 (三四八)
 十八日 (三五一)
 十九日 (三五一)
 二十日 (三五二)
 二十一日 (三五二)
 二十二日 (三五三)
 二十三日 (三五四)
 二十四日 (三五四)
 二十五日 (三五五)

十二月

二十六日 (三五六)
 二十七日 (三五七)
 二十八日 (三五八)
 二十九日 (三五九)
 三十日 (三六一)
 初一日 (三六五)
 初二日 (三六五)
 初三日 (三六九)
 初四日 (三七〇)
 初五日 (三七二)
 初六日 (三七二)
 初七日 (三七二)
 初八日 (三七六)
 初九日 (三七七)
 初十日 (三七八)
 十一日 (三七八)
 十二日 (三八一)
 十三日 (三八一)
 十四日 (三八三)
 十五日 (三八四)
 十六日 (三八六)

十七日	(三八八)
十八日	(三九三)
十九日	(三九七)
二十日	(四〇〇)
二十一日	(四〇〇)
二十二日	(四〇一)
二十三日	(四〇二)
二十四日	(四〇三)
二十五日	(四〇四)
二十六日	(四〇四)
二十七日	(四〇五)
二十八日	(四〇五)
二十九日	(四〇五)

乾隆十二年歲次丁卯正月初一日辛卯

上以元旦詣

奉先殿

堂子行禮畢率諸王貝勒貝子公內大臣侍衛大學

士都統尚書子侍郎學士等詣

皇太后宮行慶賀禮各官俱於午門外隨行禮畢

上御中和殿升座內大臣侍衛暨內閣翰林院禮

部樂部都察院詹事府等衙門官員行慶賀

禮畢

御太和殿升座諸王貝勒貝子文武大臣官員及

來朝外藩蒙古王貝勒貝子公台吉等朝鮮

諸國陪臣俱進表行慶賀禮畢詣

大高殿

壽皇殿

永安寺

弘仁寺

闡福寺行禮畢回

宮

是日

起居注官世臣林蒲封德保韓彥曾

初二日壬辰

是日

起居注官陳邦彥奉寬

初三日癸巳

上奉

皇太后於金昭玉粹進早膳

重華宮筵宴

寧壽宮進茶果晚膳

是日

起居注官西成董邦達

初四日甲午

上詣

壽康宮請

皇太后安

幸瀛臺紫光閣幄次

賜蒙古諸王筵宴是日大學士訥親張廷玉奉

諭旨朕嘉惠黎元以次輪免天下正供山西通省

地丁應於戊辰年全免但該省太原平陽潞安

寧武澤州蒲州六府遠沁平忻代保解絳八州

及歸化城各協理通判所屬有額徵本色米豆

穀麥一項以供滿漢官兵糧餉例不蠲免其實

計田納賦本色即與地丁無異今應納地丁者

均已蠲免其供輸本色者雖係支給兵餉未便

概予蠲除但此次特沛恩施亦應量加愷澤俾

伊等得以均霑著將太原等府州縣應徵本色

酌免十分之三其大同朔平二府地處邊瘠頻

年歉收著全行蠲免該部即遵諭行又奉

諭旨江南淮徐海等處地方朕已疊次加恩至再

至三地方有司遵旨辦理小民自當不致失所

但向來定例俱按被災分數賑卹今思積歉之

餘元氣一時未復其被災九分者應否照十分

之例加賑著該督撫酌量該處情形詳議以聞

是日

起居注官世臣周長發

初五日乙未

上幸瀛臺紫光閣幄次

賜準噶爾使臣筵宴

是日

起居注官文保龔渤

初六日丙申

上幸瀛臺紫光閣幄次早膳是日大學士訥親張

廷王奉

諭旨國家立綱陳紀布在方策所以明昭代之章

程備諸司之職掌以熙庶績以示訓行典至鉅也大清會典修於

皇祖聖祖仁皇帝康熙二十三年越我

皇考世宗憲皇帝御極之初即允禮臣之請開館重

修九年告竣刊梓頒行閱今又二十年矣其間

因時制宜屢有損益向來諸臣每有以重修為

請者朕以國家定制豈容數更踵事增文自有

部冊故概未准行近以幾餘時加披覽間為討

論乃晰由來有不得不重修者蓋緣編纂之初

諸臣或沿襲舊文未經考證或畧存近制未溯

本源或限於案牘之不全或悞自叅稽之不審

而又未嘗請

旨取裁斟酌至當故舛訛疎漏均不免焉夫唐虞分

職具載典謨周室經邦詳於官禮書曰鑒于先

王成憲又曰其爾典常作之師既謹度以惟貞

宜有條而不紊矧際重熙累洽之期當禮明樂

脩之日勅幾慎憲職惟其時是當博考朝章詳

稽故實正舊編之紕繆補紀載之闕遺用藏成

書垂示法守所有一切開館事宜該部定議具

奏

是日

起居注官朱蘭泰林蒲封

初七日丁酉

上詣

奉先殿行禮是日大學士訥親張廷玉奉

諭旨庶吉士張若澄著授為翰林院編修又奉

諭旨嵇璜著補授大理寺卿所遺員缺著張泰開

補授

是日

起居注官張泰開興泰

初八日戊戌

上以上辛祈穀於

上帝自是日為始

御齋宮致齋三日是日大學士訥親張廷玉奉

諭旨江南海州沭陽贛榆等處積欠帶徵銀兩已

經特恩豁免其隨正耗羨例應仍舊徵輸但念

該地方積歉之餘元氣未復若仍追節年零星

耗羨民力未免拮据著將海州及沭陽贛榆二

縣并坐落海贛二州縣之板浦徐疇中正堯濱

臨洪興庄等六鹽場乾隆十年以前民竈舊欠

所有應徵耗羨通行豁免以惠災黎

是日

起居注官德保韓彥曾

初九日己亥大學士訥親張廷玉奉

諭旨福建閩縣地丁項內有先賢二十三祠祭產

田糧一項本朝初年優免後於雍正五年該地

方官清查溢額錢糧之時誤將此項作為溢額

報解歸公現在追徵充餉朕思祠宇祭產供俎

豆牲牲之用歷來優免以卹奉祠後裔原屬國

家曠典著該督撫查明豁免永著為例所有此

項歷年未完積欠一併蠲除又奉

諭旨江南河道總督周學健著照伊品級賞給三

代封典

是日

起居注官奉寬陳大論

初十日庚子卯時

上於太和殿視祈穀於

上帝祝版禮畢回

宮已時由太和門乘涼步輦詣

圜丘壇齋宮齋宿

是日

起居注官世臣朱蘭泰陳邦彥周長發

十一日辛丑寅時

上由齋宮詣

壇行祈穀於

上帝禮畢回

宮詣

壽康宮詣

皇太后安是日大學士訥親張廷玉奉

諭旨內務府郎中富貴著山東巡撫阿里衮帶往

差遣委用以相當之缺酌量題補

是日

起居注官西成龔瀚陳大論奉寬

十二日壬寅大學士訥親張廷玉奉

諭旨上年直隸秋成豐稔惟薊州寶坻寧河豐潤

玉田五處低田間有被水淹漫者已經加恩撫

卹分別給賑惟是去年積水未涸之區不能及

時佈種今東作方興正可補種春麥著該督那
蘇圖確查無力人戶按畝酌借倉穀俾貧民得
以易換麥種早事耕作秋成免息還倉該部遵
諭速行

是日

起居注官文保于振

十三日癸卯

上詣

大高殿行禮畢

幸圓明園奉

皇太后長春仙館駐蹕詣

安佑宮行禮是日大學士訥親張廷玉奉

諭旨據甘肅巡撫黃廷桂奏稱平涼府知府歐陽

永禱母年已逾七旬遠隔廣西並無兄弟奉侍

呈請終養所遺員缺請旨簡補等語歐陽永禱
准其回籍終養其員缺著程永言補授又奉

諭旨據大學士公管川陝總督事慶復摺奏上年

十二月十八日更餘時固原州突有兵民城內

外勾通打開守門兵丁奪門而入搶掠當舖該

將等手及拒捕二人先後拿獲四十餘名查起

釁根由始自營兵現在次第根究等語固原乃

提督駐劄重地兵民夤夜肆掠大干法紀應嚴

處不法之徒以靖地方著大學士總督慶復巡

撫黃廷桂即速前往會同嚴審定擬一函具題

一面將為首重犯即行正法以懲克惡

是日

起居注官朱蘭泰陳邦彥

十四日甲辰